



# 衣服がもたらす社会問題を知り、自分の衣生活を見つめ直そう

松田 剛史 Matsuda Takeshi

藤女子大学人間生活学部人間生活学科プロジェクトマネジメント専修 准教授  
大阪府出身、北海道在住。会社員、たこ焼き屋経営、中学校教員、NPO運営やウェブ記者などを経て現職。趣味は畑作り

## エシカルチームの活動概要

本学科プロジェクトマネジメント専修では、社会のさまざまな問題をとらえ、企業や行政、NPOなどと協働してその解決や改善をめざすプロジェクトを立案・実践することで、社会で生きて働く力を身に付ける学びを展開しています。

2022年度、3年次の授業ではフードロスをテーマに野菜の切れ端から育てた再生野菜を使ったレシピ作りに取り組みました。この「リボンベジタブルプロジェクトチーム」のメンバー4名が中心となり、そこに他プロジェクトからの1名を加えた5名の学生が2023年度、4年次の授業科目「プロジェクトマネジメントⅢ」で衣服ロスをテーマにした「エシカルファッションチーム(エシカルチーム)」を立ち上げました。発足した4月当初は、手元にある衣服をどう処理するかに視点が置かれていましたが、調査活動を通して「大量生産・大量消費・大量廃棄」の関連性に着目し、環境・社会・人に対して配慮

した消費行動を意味する「エシカル消費」が大切なキーワードであることに至りました。

後に「みんなにエシカルを！プロジェクト」と命名される本活動は、「衣服と社会問題を結び付け、豊かな消費行動を広めることで、サステナブルな世の中を実現します」をミッションとして決めました。そして、その達成に向けたビジョンを「エシカルな消費行動を認識できる場をつくります」とし、その具体的な活動の柱を「イベント事業」「ワークショップ教材の実践事業」「社会調査事業」、またそれを支える活動を「社会への周知活動」として設定し、取り組んできました(図1)。これにより、9月の北海道静内高等学校でのワークショップ授業の実践へとつながりました。

## 高校でのワークショップの内容

ワークショップ教材の実践事業では、認定NPO法人開発教育協会作成・発行の教材「服・ファッションー開発教育アクティビティ集5」(図2)を使用することとし、市民講座を展開しているNPO法人さっぽろ自由学校「遊」の2023年度後

図1 ミッションの実現に向けた活動の柱

イベント事業	ワークショップ教材の実践事業	社会調査事業
5/20-21 アースデイin円山動物園 7/22 しみさぼマルシェ-2 8/4-5 SDGsゼロカーボン上映会 8/12 あそびバ！エコプラザ 9/23 しみさぼマルシェ-3 10/7-8 藤花祭(大学祭)	7/28 学内2学年への提供(8名) 9/8 札幌市環境プラザと共催事業(14名) 9/13 静内高校1年生への提供(167名) 9/25 学内1学年への提供(16名) 9/30 さっぽろ自由学校「遊」講座(15名) 2/17 苫小牧市市民講座(24名)【予定】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント、WS教材実践時に回答を依頼</li> <li>・学内ツールやSNSなどさまざまなメディアを使って回答を依頼</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミツウラップづくり体験の提供</li> <li>●フェアトレード雑貨委託販売</li> <li>●イベントスタッフ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開発教育協会教材「服・ファッション」の実践</li> <li>10-2月 さっぽろ自由学校「遊」講座(連続ワークショップ) 学生スタッフ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●衣服の所持状況把握調査(開発教育協会との協同調査)</li> <li>・実態を把握し、WS教材実践や改善などに活用する</li> <li>●エシカル認知度調査(チーム独自の調査)</li> <li>・エンカル認知度を知る</li> <li>●主にWS受講者への追跡調査(チーム独自の調査)</li> <li>・受講後にライフスタイルがどのように変化したか(していないか)の変容を見取る</li> </ul>
6/25 フェアトレードフェスタinさっぽろ2023 活動報告会 発表 7/21 日本プロジェクトマネジメント協会 北海道PMセミナー2023 発表 9/21 日高報知新聞、9/26 北海道新聞 WS記事掲載 9/26 FM NORTH WAVE「cottonsky」出演 10/26 北海道新聞「くらし」取材記事掲載 12/16 コミュニティFM三角山放送局「TAWALAB」出演 1/15 プロマネ専修成果報告会(学外向け) 発表【予定】 2/24 日本環境教育学会北海道支部研究大会 発表【予定】	加えて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記事業に関わる機会での掲示物</li> <li>・SNS等のメディアを使った広報活動</li> <li>・報道機関への情報提供や取材依頼</li> <li>・プロジェクトパートナーやステークホルダーを介した情報の提供や拡散</li> </ul>

(エシカルチーム作成)

図2 「服・ファッションー開発教育アクティビティ集5」



(認定NPO法人開発教育協会)

期講座の1つを学生が担うこととなりました。一般の方から参加費をいただく講座を実施するには、多くの実践経験が必要で、学内はもとより、学外での実践も不可欠でした。そこで、6月のフェアトレードフェスタinさっぽろ2023で活動報告をした際に同じく登壇していた静内高校に実践機会の依頼をしたところ、快く場と時間を提供いただけることになりました。「地理総合」2コマ(100分)の時間に、1年生5クラス(167名)が体育館へ一堂に会する実践でした。担当教諭によると、本科目は学習の根底としてフェアトレードやエシカルの視点を入れ、国際協力につなげたいとの構想があったことから、お互いにwin-winの実践となりました。

当日は5名または7名ずつのグループに分かれ、「日本で売られている服のうち輸入されている割合はどのくらい？(答:90%以上)」など、衣服についての現状をクイズ形式で把握したり、レクチャーから得られた知識をもとにエシカルな視点で自分が着たい服の素材や機能等を選んだ「未来のと きめきファッション」をデザインし、発表するなど、分かりやすい内容と構成でした(写真)。多人数の高校生に対して、大きなトラブルもなくワークショップ授業を進められたのも、学生の入念な事前準備とイメージトレーニング、またリハーサルを重ねてきた結果であると思います。また、学生が個々にワークショップに必要な情報を自発的に収集して学習を深め、メンバー同士で共有していたことは、高校生へのとっさのコメントや学習促進のためのヒント出しなどにもつながり、自信を持って場を提供できたことに反映されていたと思いま

#### 写真 ワークショップ授業のようす



す。授業後、高校生からは、「エシカルって知らなかったけど、とても大切なことだと知る

ことができた」「とても楽しく分かりやすかったし、そんな授業ができる大学生ってすごい！」などの評価もあり、学生たちにとっても自分たちが進めてきたプロジェクトの価値と可能性を改めて認識する機会ともなりました。

## 今後の展開

活動の柱の1つである「社会調査事業」では、衣服の所持状況とエシカル認知度についてのアンケート調査を実施し、私たち消費者の現状把握に努めています。ワークショップ受講者にも事前に回答いただき、数カ月後に追跡調査を実施して、受講による意識変容があるかどうかについても調査しています。

また、新聞やラジオといったメディアにも取り上げられ、SNSや本学ウェブサイトでもエシカルチームの活動を随時発信しています。目に留めていただいた皆さんからワークショップやイベントの依頼も寄せられるようになり、活動が着実に広がりを見せていることは、大きな成果ではないかと思っています。

今後も進展が期待される場所ですが、本プロジェクトが授業の一環であることと、活動主体の4年生が卒業することもあり、2024年3月で終了します。本活動実績と社会調査の分析結果をまとめたものを学会で発表し、研究者や専門家からフィードバックをいただくことを現時点でのゴールとしています。エシカルチームの学生からは「大学生のうちにプロジェクトの企画・運営・進行などを経験できて本当によかった。就職してからすごく役に立つ！」「正直とてもつらかったけど、今見返すとやり切った感もあるし、このメンバーでやってきてよかった！」などの感想が挙がっていました。

協力いただいた多くの事業所・団体・個人に支えられてここまでやり切ることができました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。そして、本活動の実績が後輩たちへと引き継がれることを期待しています。